

経済学部・経済学研究院

I	研究水準	研究 4-2
II	質の向上度	研究 4-2

I 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 研究活動の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、全教員（平成19年度で64名）が平成16年度以降の4年間に著書83件、論文207件、学会報告247回を発表しており、教員中20名以上が学会の役員を務めている。研究資金の獲得状況については、科学研究費補助金の採択件数（採択金額）が年平均28件（4,512万円）であり、そのほか学部同窓会からの寄付による国際学術交流振興基金、南信子教育研究基金（若手教員の出版助成）、経済学研究院重点研究プロジェクト補助金などが活用されているなどの相応な成果がある。

以上の点について、経済学部・経済学研究院の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、経済学部・経済学研究院が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2. 研究成果の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、日本の海運企業の研究や日本の産学連携技術推進政策に関する研究などの卓越した業績がある。社会、経済、文化面では、例えばエネルギーと環境政策に関する研究が優れた業績としてあり、経済史の観点から今日の環境問題への知見を与えている。また、平成16年度以降の4年間に5名の教員がレオンチェフ記念賞をはじめ学会等から受賞を受けている点は評価できるなどの相応な成果がある。

以上の点について、経済学部・経済学研究院の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、経済学部・経済学研究院が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

改善、向上しているとはいえない

当該組織から示された事例は3件であり、その中で「改善、向上しているとはいえない」と判断された事例があった。

該当する事例の判断理由は以下のとおりである。

○「外国語論文奨励制度」については、本制度の運用に関する説明が見当たらず、また、その成果として提示された論文は、卓越した水準にあるという判定はされていない点で、改善、向上しているとはいえないと判断される。

